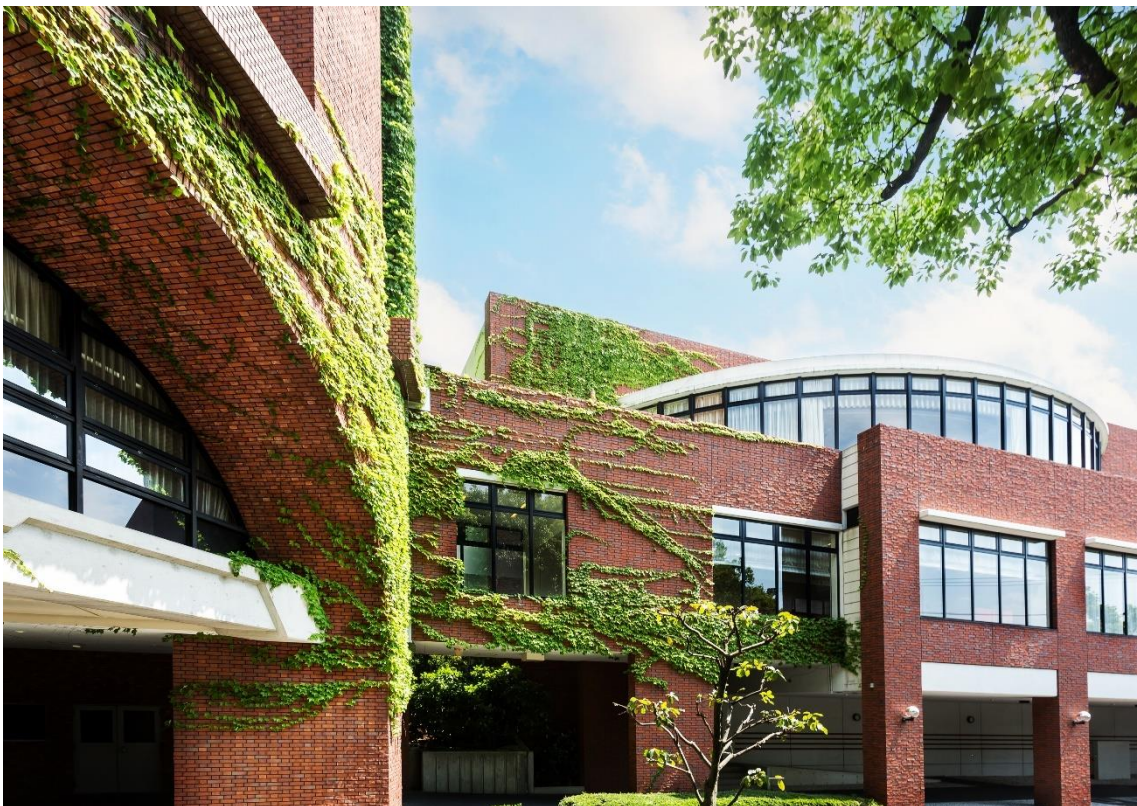


医学部

教育センター紀要

令和3年度



目次		1
医学部長あいさつ	松村到	2
医学部教育センター長あいさつ	赤木将男	3
特集 1: 医学部教育センター 医学基盤教育部門の沿革	後藤敏一	4
特集 2: 近年の学修支援活動のあゆみ	栗田隆志	11
委員会報告		
教育センター会議	赤木将男	16
教育センター懇談会	赤木将男	17
医学部教育アウトカムロードマップ策定ワーキング全体会議	赤木将男	18
教務委員会	赤木将男	19
カリキュラム委員会	梶博史	22
臨床実習委員会	三井良之	27
医学部 FD 委員会	三井良之	29
地域医療教育委員会	杉本圭相	30
学修支援委員会	栗田隆志	31
医学基盤教育委員会	岡田清孝	34
医学部 IR 委員会	伊木雅之	35
教育関連学術業績		36
編集後記		48

医学部長あいさつ

近畿大学医学部 学部長
血液・膠原病内科教室 主任教授
松村 到

本センターは、卒前教育の質の改善のための企画・立案を行う組織として 2020 年 4 月に設置されました。設立以来、コロナ感染症の蔓延により活動が大きく制限を受ける中でも、赤木センター長、梶副センター長、三井副センター長のリーダーシップのもと、アウトカム基盤型教育を実践するためのマイルストーンの設定、水平・垂直統合型授業、アクティブラーニングの推進、知識評価の妥当性の検証、技能・態度に対する客観的評価の実践と数多くの成果を達成されてきました。これらにより、当医学部の教育の質は大きく向上しました。しかし、日本医学教育評価機構（JACME）が求める世界標準レベルの医学教育の実践という目標に向けては、改善が必要な課題も数多く残されています。また、すでに改善された点についても常に問題点を見出し、改革を継続することが求められており、本センターには常に当医学部の教育の中核として活動していただく必要があります。また、医学部教育は、大きく変化していきます。令和 5 年度からは CBT と Pre-CC OSCE が公的化され、医師国家試験の CBT 化が予定されています。さらに、Post-CC OSCE の医師国家試験化も予想されます。これらに向けて、本センターには膨大な業務が待ち構えています。現在、専任教員は 3 人に増えましたが、業務量を考えると、今後更なる充実が必要と考えています。

これまで本センターの活動はどちらかといえば、学生向けの教育に比重が置かれていたと感じています。ルーブリック評価、mini-CEX の実践など質の高い医学教育を行うには、教員の意識を改革し、教育レベルも向上させていかなければなりません。教育に興味のない教員に無理やり教育を担当させるのではなく、教員が診療、研究に向かい合うのと同じように高いモチベーションをもって、教育に携わるような環境を構築する、そのための何かを見出すことができたかと考えています。教員が一丸となって熱意をもって教育を行う、そして、その方向性を定め、先頭を進むのが本センターであってほしいというのが、学部長としての私の希望であり、私が理想とする本センターの姿であります。

理想の実現は遠いとは思いますが、本センターには、学生教育への夢と希望を持って、今後も邁進していただければと考えております。

医学部教育センター長あいさつ

近畿大学医学部 教育センター長
整形外科教室 主任教授
赤木 将男

昨年5月28日に公布された「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」に基づき、医師法が改正され、「医学生は医業を行うことができる」ことに法的な根拠が与えられました。また、医学生が医業を行うに当たっての要件が定められ、令和5年度に公的化するCBTとPre-CC OSCEに合格すること、すなわち、Student Drの資格が国家資格化することが決まりました。

臨床実習において学生が診療実務を現場で診療に参加しつつ学ぶことは診療能力を培う上で重要ですが、学生が臨床実習を通じてしっかりと診療実務を学んできたか、総合的な診療能力を身につけることが出来たのか、卒後直ちに初期研修医として勤務できるのかを問うことを目的に、医師国家試験のCBT化が2年後に開始される予定です。CBT化することにより、受験者の診療能力をより的確に評価できる4連問やビデオ問題を作成しやすくなるからです。近い将来Post-CC OSCEも医師国家試験化すると思われます。卒前教育では到達度評価が必須で、主要な診療科におけるMini-CEXなどのWorkplace-based examinationの導入は待ったなしの状況で、医学部は今後多くの資源を教育に投入することが必要となるでしょう。学生も医師としての実務能力を身につけるため、臨床実習に真剣に取り組まなければなりません。

医学部教育センターが設置され2年が経過しました。現在、センターの9つの部門（教育プログラム開発、臨床実習、学生生活、地域医療、学生評価、学修支援、教員育成、IR、基盤教育）が取り組んでいる教育改革の全て、すなわち、医学基盤教育、基礎医学教育、臨床医学教育、臨床実習改革の全てが「臨床実習の充実と学生の総合的診療能力の獲得」に向けて行われていると言っても言い過ぎではありません。そして、この「総合的診療能力の確実な獲得」の狙いがどこにあるのかを我々はしっかりと認識しておかなければなりません。

教育センターの活動は今後益々重要となります。そして、その活動が教育の現場で実を結ぶよう、教育に携わるもの全てが力を合わせて前に進んで行きたいと思います。

特集 1: 医学部教育センター 医学基盤教育部門の沿革

医学基盤教育部門 特任教授
後藤 敏一

医学基盤教育部門（現：医学部教育センター 医学基盤教育部門）は、平成 30 年（2018 年）4 月 1 日付で発足した主として医学部における初年次教育を担う組織体である。医学部における生物学教育に携わって 46 年の歳月が過ぎた。いま、ここを去るにあたり筆者が所属した医学基盤教育部門の歴史を医学部開学当初までさかのぼって記録として残そうと思う。

医学部が狭山ニュータウンの丘陵地（南河内郡狭山町西山；現大阪狭山市大野東）に新設されたのは、昭和 49 年（1974 年）のことであった。当時の医学部における教育課程は、進学課程（一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目）および専門課程〔専門教育科目（基礎講座、臨床講座、自由科目）〕からなっていた。進学課程のうちの自然系の一般教育科目を担当する教員 4 名〔川口教男講師（数学）、江草利昌講師（物理学）、久保田尚志教授（化学）、根来健一郎教授（生物学）〕が、進学課程棟（現在の進学棟）に設けられた居室・研究室に常駐し新入生の教育にあたることとなった。ただし、彼らの所属は医学部ではなく教養部であった。この「医学部進学課程棟に常駐する教養部所属の教員」による新入生への教育は、近畿大学の機構改革（教養部改組）にともなう教養部所属教員の医学部、あるいは理工学部への移籍が行われた平成 13 年（2001 年）3 月まで継続した。この機構改革によってできたのが、医学部「基礎医学部門研究室」である（平成 13 年 4 月 1 日）。

平成 13 年 3 月までの間に、開学当初の 4 名の教員に加えて、浅香征洋講師（化学）、青山政利講師（物理学）、後藤敏一実験助手（生物学）が教養部所属の教員として、一般教育科目を担当することになった（表を参照のこと）。その間、生物学教育担当の根来健一郎教授の農学部への移籍（昭和 53 年 3 月）にともなって、大澤 済教授が着任（昭和 56 年 4 月）し生物学教育にあたった。大澤教授の定年退職のあとを引き継いだのが、原富之教授（平成元年 4 月）である。また、化学教育の充実の観点から、松本明子助手（旧姓門田）、大崎愛弓助手（旧姓川村）が採用され、とりわけ実験・実習の充実が図られた。また、久保田尚志教授の定年退職のあとを引き継いだのが、川口信一教授（昭和 59 年 4 月）である。

平成 3 年（1991 年）7 月には、大学設置基準の改正（基準の大綱化）が施行された。基準改正には、次の三つの大きな柱がある（清水一彦 1994）。1) 基準の大綱化（一般教養、専門教育、外国語、保健体育の科目区分の廃止等）、2) 生涯学習の振興の観点からの学習機会の多様化、3) 自己点検・評価の導入である。

これを受けて、平成5年（1993年）には本学でもカリキュラム改革が行われ、従来の一般教育科目を「総合科目」「外国語科目」「健康スポーツ科学」とした。これによって一般教育科目としての「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」のそれぞれが、「情報リテラシー論（総合科目）」、学部基礎教育科目としての「基礎科学3」、「基礎科学2」、「基礎科学1」に変更された。なお、「生物学」の教育内容の一部は総合科目である「生命現象論」に引き継がれた。これらの科目の教育の主たる部分は、引き続き教養部所属の教員によって行われた。ただし、生物学教育に関してはひじょうに早い時期から医学部教員が関与して行われていた。例えば、小林嘉代講師（ライフサイエンス研究所）によっていわゆる動物学系の教育が昭和51年（1976年）から、また、土井修市助教授（法医学教室）によって遺伝学の教育が翌年昭和52年から、それぞれ行われた。

医学部における教育・カリキュラムの現状については、医学部カリキュラム委員会への出席が認められた筆者によって、逐次、教養部長に報告がなされた。このことにより、医学部における「総合科目」「外国語科目」「健康スポーツ科学」を担う教養部としての現状認識の深化にいくらかでも貢献できたと思う。

先に述べたように、平成13年（2001年）4月に本学における機構改革によって医学部「基礎医学部門研究室」が発足した。医学部進学棟に常駐する教養部教員の一部（浅香氏、江草氏、青山氏）は理工学部に移籍し、他は医学部所属となった（川口教男氏および後藤）。さらにこの年には、長い間生物学教育に携わってきた土井修市氏が、法医学教室から当研究室に移籍した（表を参照のこと）。このように、「基礎医学部門研究室」は3名の教員をもってスタートしたわけである。このあと「基礎医学部門研究室」は平成30年（2018年）4月1日の「医学基盤教育部門」の発足まで18年間つづいた。この18年間に、表に示されるように多くの教員が本研究室のメンバーに加わった。彼らの多くは、医学部の基礎医学講座からの移籍であり、この移籍には各教員の有する専門性・教育力を初年次教育に活用する意図があった。平成15年（2003年）には、古河恵一講師・高橋昌江助手がライフサイエンス研究所から、また、山本和夫助手が高血圧研究所からそれぞれ移籍し、主として生物学教育に携わった。さらに、平成22年（2010年）には野田裕司講師が法医学教室から、松村治雄講師が免疫学教室から移籍し、それぞれが「解剖学」・「生物学」、「医用化学」の教育にあたった。また同年には、武知薫子特任講師（旧姓 辻；「英語」担当）が着任した。つづいて、平成24年（2012年）には、齋藤昭夫准教授が生化学II教室から、生塩研一講師が生理学I教室から移籍し、それぞれが「医用化学」、「医物理学」・「科学的思考演習」の教育に携わった。平成24年（2012年）3月末には永年のあいだ「数学」・「統計学」の教育に携わった川口教男教授が退職された。そのあとを引き継いだのが森内博正特任講師である（「数理科学」担当、平成25年着任）。平成27年（2015年）には岡田清孝准教授が再生機能医学教室から移籍し、その後の「医用化学」の教

育を中心になって進めた。さらに、平成 29 年（2017 年）には、松尾拓哉講師が医学部情報システムセンターから移籍し、主として解剖学教育にあたった。同年 10 月には松田学准教授が着任し、生物学教育（「細胞・形態学」）の一層の充実を筆者とともに図った。平成 29 年（2017 年）にはエスピノサ・カルデロン特任講師が着任し「医学英語」の教育にあたった。ここでは詳細は述べないが、これらの教員の多くは、本研究室への移籍の前から新入生の教育に携わっていた。

伊木雅之医学部長による「基礎医学部門研究室の改組について」と題する文書（平成 29 年 10 月 17 日付）が手元に残されている。この文書の冒頭の部分を、以下に引用する。

「現在、基礎医学部門研究室には、3 人の准教授以下 9 人の教員が所属し、1 学年を対象とした共通教養科目、外国語科目を中心に、学部基礎科目の一部、並びに 2 学年の基礎医学系 PBL テュートリアルの一部を担当している。しかし、学生が最初に接する重要な役目を果たすべき部門であるにもかかわらず責任者は教学部長で、内部に責任を持つものがおらず、自律的に運営されていない。また、昇任のシステムや新規採用のルールがなく、将来の展望が開け、発展している組織となっていない。これでは、近畿大学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」のために必要な共通教養科目や外国語、学部基礎科目の充実、強化を実現するのは困難である。そこで、組織名を「医学基盤教育部門」に変更すると共に、ミッションと責任体制を明確にし、本研究室の組織的な強化を図ることとする。（本改組は平成 30 年 4 月 1 日をもって行う）」

この文書には、これにつづいて【医学基盤教育部門のミッション】および【医学基盤教育部門の組織と運営】が述べられている。これらは、概略以下のようである。

【医学基盤教育部門のミッション】

「人に愛され、信頼され、尊敬される医師の養成」に寄与するため、医学を学ぶ基盤となる知識と医学の専門的学修に真摯に取り組む態度を養成する。1 学年の教育を企画・立案・実施する。1 学年の生活指導、出席管理を行う。各教員の専門分野における実学研究を行う。

【医学基盤教育部門の組織と運営】

教授 1 名を置き、部門長（医学部長の指名による）とする。部門長は本部門の責任者として、部門を統括する。本部門に属する教員は自律的、かつ協調的に活動し、部門長に協力する。教授以外の職位は、准教授、講師、助教とし、いずれもミッションを達成するために必要と認められる数とする。

この伊木学部長の文書で述べられたとおり、平成 30 年（2018 年）4 月 1 日付で「医学基盤教育部門」が発足し、部門長として筆者（後藤敏一）が松村到学部長からの指名を受け、その任にあたった。平成 31 年（2019 年）9 月にはミッチェム・ロデリック特任講師が本部門に着任し、エスピノサ氏に代わって「医学英語」の教育にあたった。

令和元年（2019 年）12 月 18 日（第 8 回定例教授会）において「医学部教育センター 医学基盤教育委員会規程」が審議され、翌年の令和 2 年（2020 年）4 月 1 日には、医学部内の「基礎医学講座」「臨床医学講座」「医学部教育センター」「臨床医学部門研究室」「寄附講座」の組織の 1 つである「医学部教育センター」内の 1 部門として位置づけられた。ちなみに「医学部教育センター」には、次の 8 つの部門がある：「教育プログラム開発部門」「臨床実習部門」「地域医療教育部門」「学生評価部門」「学修支援部門」「教員育成部門」「医学部 IR 部門」「医学基盤教育部門」

令和 2 年（2020 年）3 月末で定年退職（つづく 2 年間は特任教授として在籍）となった筆者に代わって、岡田清孝氏が教授に昇格し部門の統括にあたった。さらに令和 4 年（2022 年）4 月 1 日からは岡田清孝教授（定年退職；2 年間は特任教授として在籍）に代わって教授に昇格した松田学氏が部門の統括にあたり今日に至っている。また同年には博多義之講師が免疫学教室から本部門に移籍し、松田学教授とともに生物学教育（「生命科学」、「細胞・形態学」）にあたっている。

これまで述べてきたように、医学部の初年次教育を担う教員組織は開学時の「教養部所属の医学部常駐の教員組織」から医学部所属の「基礎医学部門研究室」へ、そして「医学基盤教育部門」「医学部教育センター医学基盤教育部門」へと変遷してきた。この間、多くの教員の移動があった。しかし、組織のメンバーがどのように変わろうとも、いつの時代にも各所属教員が自ら研鑽し、教育力の養成にその時間の多くを費やしてきたことは確かである。本医学部へ入学する学生の資質も年々変化してきている。その変化を敏感に感じ取り、それに柔軟に対応できる教育体制を構築していく責務を私ども「医学部教育センター 医学基盤教育部門」は担っている。「人に愛され、信頼され、尊敬される医師の養成」を目的とした、近大医学部における現在の、そして未来の、あるべき初年次教育の理想像を常に求め、日々、歩んでいくことを切に願う。

【参考文献】

- 伊木雅之．2017．基礎医学部門研究室の改組について
近畿大学．1974．パンフレット「近畿大学 医学部開設 1974」
近畿大学医学部教育要項（1974 年～2021 年）
近畿大学医学部 10 周年記念委員会．1985．近畿大学医学部 10 年のあゆみ
近畿大学医学部・附属病院 30 周年記念誌編集委員会．2005．近畿大学医学部・
附属病院 30 周年記念誌
清水一彦．1994．大学設置基準の大綱化と大学の変貌．JEAS pp. 25-37.

表、教養部（1974年～2001年3月末）、基礎医学部門研究室（2001年4月～2018年3月）、
医学基盤教育部門（2018年4月～2020年3月）、医学部教育センター 医学基盤教育部門（2020年4月以降）の所属教員の動向

		1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	～	1981年	1982年	1983年	1984年	～	1989年	1990年	1991年	～	1995年	～	2000年
		医学部開学																	
教員	主な担当科目																		
根来健一郎	生物学	3月末 移籍																	
後藤敏一	生物学・生命科学																		
大澤 清	生物学																		
原 富之	生物学																		
土井修市	遺伝学																		
古河恵一	解剖学・生物学																		
高橋昌江	生物学																		
山本和夫	生物学																		
野田裕司	解剖学・生物学																		
松田 学	細胞・形態学																		
博多義之	生命科学																		
松尾拓哉	解剖学																		
久保田尚志	化学																		
浅香征洋	化学	9月																	
松本明子	化学																		
大崎愛弓	化学																		
川口信一	化学																		
松村治雄	医用化学																		
齋藤昭夫	医用化学																		
岡田清孝	医用化学																		
江草利昌	物理学																		
青山政利	物理学	6月																	
生塩研一	医物理学・科学的思考演習																		
川口教男	数学・統計学																		
森内博正	数理科学																		
武知薫子	英語																		
エスピノサ	医学英語																		
ミツチェム	医学英語																		
		医学部進学棟に常駐する教養部所属の教員																	

		2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	～	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		
		基礎医学部門										医学基盤教育				医学部						
教員	主な担当科目	研究室										部門				教育センター						
根来健一郎	生物学																					
後藤敏一	生物学・生命科学																		3月末 特任	3月末 退職		
大澤 済	生物学																					
原 富之	生物学																					
土井修市	遺伝学	法医学教室										3月末										
古河恵一	解剖学・生物学	ライフサイエンス研究所																				
高橋昌江	生物学	ライフサイエンス研究所																				
山本和夫	生物学	高血圧研究所														3月末						
野田裕司	解剖学・生物学											法医学教室				3月末						
松田 学	細胞・形態学															10月						
博多義之	生命科学																			免疫学教室		
松尾拓哉	解剖学															医学部情報システムセンター				3月末 退職		
久保田尚志	化学																					
浅香征洋	化学											理工学部へ										
松本明子	化学																					
大崎愛弓	化学																					
川口信一	化学																					
松村治雄	医用化学											免疫学教室										
齋藤昭夫	医用化学											生化学Ⅱ教室				3月末						
岡田清孝	医用化学															再生機能医学教室				3月末 特任		
江草利昌	物理学															理工学部へ						
青山政利	物理学															理工学部へ						
生塩研一	医物理学・科学的思考演習											生理学Ⅰ教室										
川口教男	数学・統計学											3月末										
森内博正	数理科学																					
武知薫子	英語															3月末 移籍						
エスピノサ	医学英語																					
ミッチェム	医学英語															9月				1月末退職		
		基礎医学部門研究室														医学基盤教育部門				医学部教育センター		
																				医学基盤教育部門		

特集 2: 近年の学修支援活動のあゆみ

近畿大学病院 心臓血管センター長
学修支援委員長
栗田 隆志

1. 2021 年度

学修支援委員会は 2020 年 4 月からの教育部門の改革に伴い設立され、私、栗田がその委員長を拝命いたしました。20 年以降はコロナウイルス感染の影響でオンライン講義となり、さらに新・新カリキュラムの導入も重なり、特に低学年（1-2 学年）の学生の教育についての懸念因子が増えました。従って、20～21 年度は低学年の成績不良学生を対象とした活動が中心になりました。

1) 低学年への対策

従前から学生に対する個別指導として「担任制（メンター制度）」が設けられていましたが、成績とは関係なく均等に担当教員が割り当てられるため、特に成績が振るわない学生にとって十分に機能しているとは言い難い現状がありました。

そこで、1-2 学年を対象にした特別学生指導制度による個人指導を行うこととしました。本制度に該当する学生は従来の担任制から外し、本制度による指導のみとしました。担当の教員は該当する学年の講義を受け持っている教官から選択し、担任制に加えて、特別指導体制についての負担をしていただきました。また、特別指導教員会議を定期的（1～2 か月毎）に開催し、それぞれの学生に関する情報交換を行いました。

該当する 1 学年が進級した場合は原則として 2 学年でも特別指導体制に組み込み、担当は 2 学年の講義担当教官に変更しました。2 学年が 3 学年に進級した場合は通常の担任制度に組み込みますが、2 学年次に行った指導についてメンターへの情報提供を行うことにしました。

- 2) 5-6 学年については S クラスについての改革を行いました。以前の S クラスについては受講する学生からの評価が必ずしも高かったわけではなかったもので、講師陣には学生からの評価が高い先生を揃えました。また、可能な限り、学修支援委員が S クラスに参加し、学生のみならず、講師の先生方の Motivation を向上させる試みを行いました。

3) 21 年度活動の成果について

21 年度は極めて高い国家試験の合格率が達成されました。S クラスにいた学生たちが最後の努力を怠らなかったこと（S クラス在籍学生の 24/28 名、86%

が卒業し、その 23 名、96%が国試合格) もその要因のひとつとっております。嬉しい限りです。しかし、予想を超えた数字に若干戸惑っているのも事実であり、本年度以降も手綱を緩めず指導を続けます。

低学年における成果を正確に評価するのは難しいのですが、4 月から特別指導を行った学生(留学年)の進級率は 1 学年で 10/11 名(91%)、2 学年で退学者を除く 14/17 名(82%)でした。

4) 残された課題

- ① 3-4 学年への活動がほとんど行えなかったこと。
- ② 1-2 学年の特別指導体制について、留学年に関しては序期のごとく指導体制が功を奏したようです。しかし、進級した学生内で発生する成績不良学生に対するアクションが夏休み以降となり、対応が遅れ、1 学年と 2 学年の進級率はそれぞれ 4/10 名(40%)と 5/9 名(56%)であり、大変残念な結果でした。
- ③ 5 学年における苦手科目の把握や内科学の学習が十分にできていないこと
- ④ 6 学年 S クラスの改革が十分でないこと

2. 2022 年度

上記に示したように 21 年度の反省を基にいくつかの改定を行いました。

1) 低学年の特別指導体制について

進級した学生における成績不良の早期把握を行うため、以下の工夫を行いました。まず 1 学年については、入試の成績は必ずしもその後の成績を反映するものではないとの情報があるため、入学時点で特別指導対象者を割り出すのは不可能と判断しました。一方、最初の正式な試験結果の判明が 8 月であり、そこからの活動では時期を失することになります。したがって、講義への出席率、レポート提出率とその内容、小テストの成績などから 5 月下旬までに成績不良学生の予測を行うこととしました。

2 学年では、進級した学生について 1 学年次の情報があり、これが利用できます。IR 室の藤田先生に依頼し、1 学年次の本試験の成績からハイリスク学生を同定しました。その情報を基に 1 学年の特別指導教員と協議し、ハイリスク進級生についても 4 月から特別指導体制に組み入れました。しかし、活動開始時、すでに対象者が 19 名に上り、2 学年の担当教員にはかなりの負担をかけることになっています。これ以外に成績不良学生が出現した場合の対応に苦慮しそうです。

2) 3-4 学年の特別指導体制について

3 学年については、2 学年次に特別指導体制にあった学生については 3 学年からメンター制度に移行しますので、メンター担当教員に 2 学年次の情報を提供し、これらの学生について濃密に指導いただくようお願いしております。

また、学生生活委員にメンター指導指針の作成を依頼し、急所を突く指導ができるようにお願いしております。

4 学年では、9 月に行われる CBT の全員合格を目指して活動方針を立てることにしました。従前は CBT 対策講義を試験直前に行っていましたが、必ずしも学生の評判は良いとは言えず、時期的にも遅すぎる点が指摘されていました。そこで、まずは苦手科目の割り出しを早期に行うため、6 月に CBT 対策用試験の実施を検討しています。ただし、これについては資金の目途が立っておらず、苦慮しています。

3) 高学年の特別指導体制について

5 学年終了時点で内科学に対する国試対策を仕上げておくことが極めて重要と指摘されています。したがって、5 学年の 8 月に内科に特化した試験を行い、苦手科目・項目の割り出しを行う予定にしています。特に成績下位の学生にとっての不得意科目を割り出し、秋以降に開始される S クラスのプログラム編成に役立てます。

6 学年の S クラスは 4 月から開始され、従来は 4 月に施行されていた中間判定試験の問題解説を中心にプログラムしておりましたが、終了した試験の解説では学生の Motivation を高めることが困難だと感じていました。幸い (?) 本年度からこの試験は BSL 試験と名称を変え、5 月の連休後に行われます。また、5 学年終了直前の総合試験定期試験は国試予備校の問題を使用しており、学生の苦手科目を割り出すことができました。そこで、これらを利用し、S クラス講義を「内科系苦手科目克服プロジェクト」と命名し、すべて学生が苦手とする内科学科目に特化し、学生にとって魅力的な講義にしようと努めました。講師陣がこの点を理解して講義を行ってくれることを祈っています。

今後も学修支援委員会の活動にご理解とご協力を深くお願いして報告を終わりたいと思います。学修支援委員会の年間活動予定表を以下に示します。

図1 1, 2 学年に対する活動予定

図2 5, 6 学年に対する活動予定

[委員会報告]

教育センター会議

医学部教育センター長
赤木 将男

第1回 医学部教育センター会議

日時：令和3年7月20日（火）16：00～17：40

場所：Zoom によるオンライン会議

議事：

1. 1-4 学年電子ポートフォリオと CC-EPOC の導入について（池田）
2. GPS Academic（近大独自設問を含む）の実施について（池田）
3. ストレート卒業が出来なかった学生と入試の理科選択科目との関係（池田）
4. 教育アウトカムロードマップ策定 WG について（赤木）
5. 医学部教学 PDCA サイクルと医学教育将来構想会議規程（案）（赤木）
6. 評価有用性を考えた評価方法アンケートとその解析・フィードバック（藤田）
7. 地域枠学生へのキャリア支援と都道府県との連携について（藤田）
8. 臨床実習の包括同意について（三井）
9. 教育アウトカム改訂について（松村）

第2回 医学部教育センター会議

日時：令和4年1月5日（水）15：00～16：40

場所：専門棟2階 第8講義室

議事：

1. 教育センター紀要第一号について（岡田）
2. 教育アウトカムロードマップのレベルと評価について（赤木）
3. Pre-CC OSCE 前のカリキュラムの充実について（三井）
4. 臨床実習における Mini-CEX (clinical evaluation exercise)の導入（三井）
5. IR による教学関連データ解析（伊木、藤田裕規）
6. 授業形態と評価方法の有効性に関するアンケート調査結果（藤田貢）

[委員会報告]

教育センター懇談会

医学部教育センター長
赤木 将男

第1回 医学部教育センター懇談会

日時：令和3年5月14日(金)17:00～19:00

場所：手術棟 3F 会議室

出席者：赤木、梶、三井、池田、藤田、岡田

議事：

1. 教育形態と評価方法に関するアンケート案（藤田）
2. 教育アウトカムロードマップと行動科学（赤木）
3. 1-4 学年電子ポートフォリオの見通し（池田）
4. CC-EPOC 導入・GPS-Academic 導入の見通し（池田）
5. 臨床実習の評価（形成的評価、総括的評価、Programmatic assessment）（三井）

第2回 医学部教育センター懇談会

日時：令和4年3月22日 18:30～20:30

場所：手術棟 3F 会議室

出席者：赤木、梶、三井、岩永、池田、藤田貢、藤田裕規

議事：

1. 令和3年度紀要（春から原稿収集開始）のテーマについて（藤田貢）
2. 教育評価方法の有用性教員自己評価アンケートの改善点、今後の方針（藤田貢）
3. 1 学年選択科目データリテラシー入門（藤田貢）
4. 医学教育専門家資格の要件（藤田貢）
5. 追・再試験の実施方法、特に欠席や公欠の扱い（赤木）
6. 教育アウトカムロードマップとポートフォリオ（赤木）
7. IR の業務とセンターとの関連（藤田裕規）
8. 新2 学年成績不良者の予測のための1 学年における成績の分析（藤田裕規）
9. 臨床各論への「症候・病態」の取り入れ方（三井）
10. 臨床各論 IX（症候・病態テュートリアル）のあり方（三井、岩永）
11. OSCE 公的化に向けて年間のスケジュール（三井）
12. 臨床実習における患者同意について（三井）

[委員会報告]

医学部教育アウトカムロードマップ策定ワーキング全体会議

医学部教育センター長
赤木 将男

第1回 全体会議

日時：令和3年8月24日 17:00～18:00

場所：研究棟6階会議室

出席者：赤木、岡田（満）、岡田（清）、梶、三井、岩永、池田、藤田貢、藤田裕規、東、奥村

議事：

1. 6年間一貫の教育アウトカムとロードマップのレベルについて
2. 教育アウトカムとロードマップ原案
3. ロードマップ策定のための今後のロードマップ
4. ロードマップ策定のためのアンケート
5. ロードマップ策定のためのレベル記入依頼

第2回 全体会議

日時：令和3年10月6日 17:00～18:00

場所：研究棟6階会議室

出席者：赤木、岡田（清）、梶、三井、岩永、池田、東、奥村

議事：

1. 教育アウトカムとロードマップ素案
2. ユニット内での授業統合・試験統合に向けて
3. 臨床各論ユニットでのレベル評価
4. レベル評価のフィードバック方法
5. 社会医学の環境医学・行動科学でのロードマップレベル評価
6. ロードマップ完成までの今後の予定

第3回全体会議

日時：令和3年12月3日 17:00～18:00

場所：研究棟6階会議室

出席者：赤木、岡田（清）、竹山、岡田（満）、三井、池田、奥村、藤田

議事：

ロードマップレベル、ロードマップ全体についての各委員の意見集約と素案の完成

[委員会報告]

教務委員会

教務委員長
赤木 将男

例年通り、医師国家試験結果の総括、5-6 学年総合試験、関西公立私立共通卒業試験、Pre-CC OSCE、CBT、Post-CC OSCE の実施および合否判定についての検討および教授会への提案を行った。また、分野別評価関連の議事について検討した。各学年の進級判定、6 学年卒業判定についての教授会提案を行った。医学部諸規定および履修要項の修正を行った。さらに、今年度も継続して新型コロナウイルス感染症への教務対応を検討し、教授会提案を行った。以下に、11 回の委員会議事を示す。

第 1 回 教務委員会

日時：令和 3 年 4 月 8 日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 第 115 回医師国家試験の総括について
2. Post-CC OSCE の特例実施について
3. CC-EPOC の導入について
4. 医学部における学業成績への不服申し立てに関する規定
5. 臨床実習の継続について
6. 学修支援委員会報告

第 2 回 教務委員会

日時：令和 3 年 5 月 7 日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 5 学年 実力テスト実施要項について
2. 関西公立私立共通試験問題の診療科別分類と配布について
3. 6 学年 中間判定試験結果について
4. 教務に関する 5 月 24 日以降の対応について

第3回 教務委員会

日時：令和3年6月10日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 6 学年 総合試験実施要項について
2. 6 学年 中間判定試験結果について
3. 6 学年 特例措置による Post-CC OSCE 実施について
4. 5 学年 必修試験結果について
5. 4 学年 臨床実習開始時期について
6. 既修得単位認定の結果について（報告）
7. 教育アウトカムのロードマップについて
8. システム障害発生時の授業対応について
9. 学修支援委員会報告
10. 3 学年 ハイブリッド授業開始日について

第4回 教務委員会

日時：令和3年7月7日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 1-2 学年、3-4 学年各コース試験の妥当性評価
2. 特例試験の実施有無について
3. 学修支援委員会報告
4. 2022 年度以降の 5-6 学年の主要試験の変更
5. 教育アウトカムロードマップ策定 WG について

第5回 教務委員会

日時：令和3年9月8日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. Post-CC OSCE の結果報告
2. 6 学年 総合試験(1)結果について
3. 5 学年 実力テストの結果について
4. 4 学年 CBT 本試験結果について
5. 2-3 学年 総合試験実施要項について
6. 2 学年 定期試験不正行為の処分案について
7. 2022 年度 2-6 学年 教務日程について
8. 医学部教学 PDCA サイクル、医学教育将来構想会議規程案

9. ロードマップ策定の進捗状況と FD 開催、アンケート、レベル記入依頼

第 6 回 教務委員会

日時：令和 3 年 10 月 14 日 17：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 6 学年 Post-CC OSCE 再試験の結果について
2. 4 学年 CBT 追・再試験の結果について
3. 令和 3 年度 特例試験の実施について
4. 教学 PDCA サイクルと医学教育将来構想会議規定
5. 医学部自己点検・評価委員会の設置について
6. 教育アウトカムロードマップ策定の進捗状況
7. 令和 4 年度 授業評価改善（案）について
8. 令和 4 年度 学則変更について
9. 学生の UNIPA 欠席届 添付書類の提出省略について

第 7 回 教務委員会

日時：令和 3 年 11 月 10 日 17：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 6 学年 関西公立私立共通試験結果
2. 4 学年 Pre-CC OSCE 本試験および再試験結果
3. 4 学年 CBT 臨時再試験結果
4. 2022 年度 1 学年教務日程について
5. 2021 年度 卒業判定・進級判定 公開日について
6. 教育アウトカムロードマップの策定状況について
7. 医師国家試験 CBT トライアル試験の実施について
8. 2022 年度の授業形態について（遠隔授業の取り扱いを含む）
9. 1 学年後期 データリテラシー入門授業への参画について
10. 近畿大学教員の人材育成の目標・方針について
11. 授業形態と評価方法の有用性に関するアンケート
12. 医学部・自己点検評価委員会について

第 8 回 教務委員会

日時：令和 3 年 12 月 8 日 17：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 6 学年 2021 年度 総合試験（2）結果および総合試験再試験該当者
2. Pre-CC OSCE の公的化トライアル実施について
3. 教育アウトカムロードマップ案について

第 9 回 教務委員会

日時：令和 4 年 1 月 7 日 17：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 5 学年 総合試験の結果について
2. 6 学年 総合試験 追再試験の結果および卒業判定について
3. 令和 4 年度 6 学年 BSL 試験①②作問依頼について
4. 令和 4 年度 5 学年 必修試験 作問依頼について
5. その他
 - (1) 学士力強化検討委員会報告
 - (2) コロナ対応学内再試験の場合

第 10 回 教務委員会

日時：令和 4 年 2 月 10 日 17：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 2 学年 総合試験の結果について
2. 令和 3 年度 学長賞・学部長賞について
3. メディア授業 60 単位への対応：大学全体の教務システム変更
4. 4 月以降の授業方法について
5. 臨床各論授業における症候学の組み込みについて
6. 授業形態と評価方法の有効性に関するアンケート調査結果
7. 2022 年度 4 学年 教務日程の変更について
8. 病院での実習が不能の場合の課題の紹介

第11回 教務委員会

日時：令和4年3月9日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 2 学年 総合試験（追再試験・特例試験）結果について
2. 3 学年 総合試験（本試験・追再試験）結果について
3. 5 学年 総合試験（追再試験・特例試験）結果について
4. 令和3年度 1-5 学年 進級判定について
5. 6 学年 総合試験 作問依頼について
6. 医学部諸規程の改正について
7. OSCE 運営委員会の組織改編（メンバー編成を追加）案
8. IR による教学関連データ解析
9. 2022 年度 授業・試験運営方法マニュアルについて
10. 2022 年度 令和4年度 6 年 S クラス国家試験対策スケジュールについて

[委員会報告]

カリキュラム委員会

カリキュラム委員長
梶 博史

令和 3 年度も令和 2 年度にひき続いて、新型コロナウイルス蔓延に対応した授業・実習の方法を模索してきました。職員や学生のワクチン接種は進んだものの、コロナウイルス変異株や患者数の増加に伴い、学生や教員の陽性者や濃厚接触者も見られるようになり、緊急事態対応の授業形式と緩和された時期の授業形式を時期により変更する運営となりました。実習については、感染安全対策に留意しながらの対面実施を目指しました。

日本医学教育評価機構による分野別認証では、行動科学教育の推進が求められています。カリキュラム委員会では、行動科学教育ワーキンググループでの検討を踏まえた、アウトカム基盤型の行動科学教育プログラムを検討しました。また、1 学年前期の火曜日はオンライン授業日として、学生は自宅から Zoom で授業に参加する曜日を設け、他学部との合同授業を拡充する契機となりました。具体的には、選択必須科目の新規科目として、文芸学部との合同授業である「ホスピタルアートから見た患者ケア」を新たに設置し、「教養特殊授業」は、医学部・法学部・薬学部の 3 学部合同授業に変更となりました。さらに、文科省が推進する「数理・データリテラシー・AI 教育プログラム」に全学的に対応する科目の設置が必要な背景で、「データリテラシー入門」を、新たな選択科目として、オンデマンド授業科目の形で設けることになりました。一方、教員体制の大幅な変更に対応して、1 学年の英語科目を見直し、外国語科目を 1 学年から 4 学年へと「医学英語 I」「医学英語 II」、「医学英語 III」、「医学英語 IV」として教育するカリキュラムへの変更となりました。結果として、今年度も 1 学年のカリキュラム・時間割は大幅な改訂となりました。カリキュラム委員会は令和 3 年度はいずれも Zoom 開催となっています。

第1回 カリキュラム委員会

日時：令和3年4月7日 17:30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 令和3年度カリキュラム委員会学生委員について
2. オンライン授業日導入に伴う令和4年度1学年時間割変更
3. 行動科学カリキュラムについて
4. アクティブラーニング・垂直水平的統合に関するアンケート結果と今後の対策について
5. 基礎配属実習アンケート結果

第2回 カリキュラム委員会

日時：令和3年6月2日 17:30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 新しい教養選択授業の科目について
2. 令和2年度 各学年カリキュラムに関するアンケート結果について
3. 今後のポストコロナにおける臨床実習カリキュラムの方向性について

第3回 カリキュラム委員会

日時：令和3年10月6日 17:30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 医学英語について
2. データリテラシー入門について
3. 1学年科目名変更について
4. 令和4年度 学則変更について
5. オンライン授業現在の問題点と今後の方策について

第4回 カリキュラム委員会

日時：令和3年12月1日 17:30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 令和4年度シラバスについて
2. 令和4年度 医学英語日程について
3. 令和4年度 時間割作成について
4. DREEM 調査結果について
5. 令和4年度4月以降の授業方法について

第5回 カリキュラム委員会

日時：令和4年2月2日 17:30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 令和4年4月以降の授業方法について
2. 基礎医学・社会医学における CBT 対策について
3. 2 学年テュートリアル担当表

[委員会報告]

臨床実習委員会

臨床実習委員長
三井 良之

2021（令和3）年度も、臨床実習委員会の活動は、コロナ対策が最重要課題であった。コロナ感染拡大の状況に合わせて、病院内での教育活動も変化せざるを得なかった。それでも、徐々に臨床実習の範囲を拡大していったのだが、2022年1月からのオミクロン株の感染拡大は、極めて急激であり、再度の停滞を余儀なくされた。一方で、昨年度も紹介した臨床実習70週に伴う臨床実習レビューについては、オンラインでの医療面接と臨床推論を行う模擬mini-CEXを実施した。藤田先生、池田先生、小児科丸谷先生のご協力に負うところが大きい。改めて感謝申し上げたい。

第1回 臨床実習委員会

日時：令和3年5月12日（水）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 臨床実習のコロナ対応について
2. 行動科学アンケート結果について
3. カンファレンス遠隔参加の方法について
4. Post-CC OSCEについて【試験内容を含むため、学生委員退室後実施】

第2回 臨床実習委員会

日時：令和3年7月14日（水）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 今後の臨床実習段階的再開について
2. 2021年11月開始の臨床実習の日程について
3. 2021年11月開始の臨床実習シラバスと評価シートの作成について
4. 2021年11月開始の臨床実習における臨床実習レビューについて
5. 臨床実習Ⅱにおける教育連携病院について
6. 4学年 臨床総論Ⅱ・実習、日程確認と自由利用の方針
7. 臨床実習のポスター（患者さん向け同意）
8. 実習ユニフォームについて
9. Post-CC OSCE に関する報告【学生委員退出後】

第3回 臨床実習委員会

日時：令和3年9月1日（水）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 臨床実習シラバスと評価表作成依頼について
2. コロナ対応第3段階への移行について
3. 11月1日からの臨床実習オリエンテーション・各科の説明会について
4. その他

第4回 臨床実習委員会

日時：令和3年11月8日（水）17：30～18：30

場所：Zoom 会議

議事：

1. Pre-CC OSCE の結果と4学年臨床実習Iについて【学生委員退出後】
2. コロナ対策
3. シラバスとルーブリック評価表について及び教育アウトカムロードマップと臨床実習
4. ログブックと Google Classroom の連動方法について
5. 2022年1月からの臨床実習IIの希望調査状況

第5回 臨床実習委員会

日時：令和4年1月5日（水）17：30～18：30

場所：Zoom 会議

議事：

1. 臨床実習 第3段階について
2. 体調管理シートの記入について
3. 奈良病院の一部診療科の振替について
4. 3月14日からの臨床実習レビュー mini-CEX 評価と医療安全実習

第6回 臨床実習委員会

日時：令和4年3月2日（水）17：30～18：30

場所：Zoom 会議

議事：

1. 2022年1月以降の臨床実習の現況報告
2. 2022年4月以降の臨床実習について
3. 臨床実習IIにおける割り当てについて
4. 2022年3月14日以降の模擬 Mini-CEX について（学生委員退席後）

[委員会報告]

医学部 FD 委員会

医学部 FD 委員長
三井 良之

FD 委員会は前年度末に 1 年の活動計画を議論、決定するための会議を開き、それ以外は不定期の開催である。2021 年度は 2022 年 3 月 30 日（水）に開催となった。FD では常に参加者数が問題となる。オンライン化することで、受講者が増加することを期待したが、残念ながら数値的には教員参加率は、36%程度と前年同様であった。教員の立場も多様化していることから、今後は、それぞれのニーズに応じた内容を提供すること、今後は、オンデマンド化し、随時、視聴可能とすることを計画している。

FD 委員会

日時：令和4年3月30日（水）16：00～17：00

場所：Zoom 会議

議事：

1. 2021 年（令和 3 年）年度 FD 研修 結果報告
2. 2021 年（令和 3 年）年度 FD 研修会開催について

[委員会報告]

地域医療教育委員会

地域医療教育委員長
杉本 圭相

1. 地域医療教育委員会
開催なし

2. 地域医療教育について

今後の活動計画

- ・ 地域枠学生へのヒアリング
- ・ 一般枠、地域枠学生双方に対する地域医療教育の拡充
- ・ 地域医療の紹介ウェブページの作成
- ・ 地方自治体や地域医療関係の諸機関等と連携・協力した卒前・卒後・生涯にわたる地域医療人の育成

[委員会報告]

学修支援委員会

学修支援委員長
栗田 隆志

第1回 学修支援委員会

日時：令和3年4月6日（火）15：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 2020年度学修支援委員会 活動報告
2. 2021年度6学年Sクラスについて
3. 2021年度特別指導担当教員（1-2学年）
4. 3-4学年に対する学修支援対策について
5. その他

第2回 学修支援委員会

日時：令和3年6月1日（火）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 特別指導における活動報告
2. Sクラス講義出席率および学修支援委員のSクラス参加促進
3. その他

第3回 学修支援委員会

日時：令和3年6月29日（火）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. Good・Best Teacher 賞について
2. 国家試験対策について
3. Sクラス改革案
4. その他

第4回 学修支援委員会

日時：令和3年9月28日（火）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 1-2 学年の活動状況報告
2. 反省点と次年度の改革案について
3. S クラス改革案
4. CBT 合格を目標とした支援について

第5回 学修支援委員会

日時：令和3年11月30日（火）17：30～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 1-2 学年の活動状況報告
2. 4 学年以降の改革案について
3. その他

第6回 学修支援委員会

日時：令和4年2月21日（火）18：00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 1-2 学年の活動状況報告・次年度対策
2. 6 学年 S クラス対策について
3. CBT 対策について
4. その他

〔小委員会〕

1 学年特別指導教員会議

第1回	令和3年4月14日（水）18：00～	Zoom 会議
第2回	令和3年6月9日（水）18：00～	Zoom 会議
第3回	令和3年9月1日（水）18：00～	Zoom 会議
第4回	令和3年11月10日（水）18：00～	Zoom 会議
第5回	令和4年1月12日（水）17：15～	Zoom 会議
第6回	令和4年3月23日（水）17：00～	Zoom 会議

2 学年特別指導教員会議

第1回	令和3年5月13日（木）17：00～	Zoom 会議
第2回	令和3年7月15日（木）17：00～	Zoom 会議
第3回	令和3年9月9日（木）17：00～	Zoom 会議
第4回	令和3年11月25日（木）16：30～	Zoom 会議
第5回	令和4年1月27日（水）16：30～	Zoom 会議
第6回	令和4年3月24日（木）16：30～	Zoom 会議

[委員会報告]

医学基盤教育委員会

医学基盤教育委員長
岡田 清孝

医学基盤教育委員会は、1 学年教育課程の充実に関わる事項を審議し、必要な措置を講ずることを目的として昨年度より開設された。今年度の委員会では、1 学年のカリキュラムが来年度より週 1 日のオンライン講義日の設置や選択科目、オンデマンド科目の新設など大幅に変わることについてその対応などを審議した。また、来年度より 1 学年の学生の持続性のある学修向上意欲やより良い学生生活をおくることなどを目的としたポートフォリオの導入について審議した。

医学基盤教育委員会

日時：令和 3 年 12 月 20 日 17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 来年度 1 学年の教務日程とカリキュラム
2. 来年度 1 学年のオリエンテーション
3. 来年度 1 学年の授業形態
4. 来年度 1 学年の新科目「データリテラシー入門」（オンデマンド科目）
5. 来年度 1 学年の生物・化学系科目の実習予定
6. ポートフォリオの実施について
7. その他（メンター制度について）

[委員会報告]

医学部 IR 委員会

医学部 IR 委員長
伊木 雅之

1. 医学部 IR 員会の開催状況

第1回医学部 IR 委員会を6月14日に開催し、2020年度のIR委員会活動を下記のように報告し、2021年度の活動内容を検討した。

- ① 2020年度1-4学年の各科目と全科目平均点との相関、各科目と総合試験との相関、4学年のCBTのIRT標準スコアとの相関、1-4学年科目別試験結果における留年生の識別係数とROC曲線について分析。
- ② 入試成績と入学後の成績の関連について、CBTデータが存在する2015年からの3年間を合わせて集計し、センター入試前期・中期と一般入試前期の成績との相関にて解析。

2. 医学部 IR 委員会の活動

2021年度の活動として以下の解析を行った。

- ① 各科目本試験、コース末本試験の妥当性の評価
 - 1. 同学年内におけるコース試験各科目得点とコース試験全科目平均点との相関係数算出（1-4学年について解析）
 - 2. 同学年内におけるコース試験各科目得点と総合試験・CBTとの相関係数算出（1-4学年について解析）
 - 3. 同学年内におけるコース試験科目別の留年生の識別係数算出（1-4学年、6学年について解析）
 - 4. 同学年内におけるコース試験科目別の留年生のROC曲線作成（1-4学年、6学年について解析）
- ② 入試成績と入学後の成績の関連の検討
 - 5. 入学試験とCBTとの相関係数算出（2015～2017年のデータを使用）
 - 6. 入学試験と留年との関係性を評価（2015～2017年のデータを使用）
- ③ 6学年の卒業判定試験の妥当性の評価
 - 7. 医師国家試験の合否と6年次実施試験との関係（2020年度6学年について解析）
- ④ 成績不良者予測モデルの確立
 - 8. CBT不合格者の予測方法の検討（2021年度4学年について解析）
 - 9. 1学年の成績から見た2年進級後の成績不良者の予測方法の検討（2020年度1学年について解析）

[教育関連学術業績]

著書

松田学. ポスト新型コロナ時代のウイルス教育. 理科教室 797:38-45 (2021)

松田学. ワクチンを学ぶ・ワクチンから学ぶ. 理科教室 803:63-69 (2021)

松尾拓哉.運動器学ハンドブック. 時潮社. ISBN978-4-788-80754-9 (2022)

浅島誠ほか（松田学：分担執筆・編集）高等学校教科書「生物基礎」東京書籍(2022)

浅島誠ほか（松田学：分担執筆・編集）高等学校教科書「新編生物基礎」東京書籍 (2022)

東京書籍高校生物編集委員会（松田学：分担執筆）高校生物基礎指導書. 東京書籍 (2022)

[教育関連学術業績]

論文

Matsuo T, Takemori K, Daito E and Nakagawa M. Relationship between dietary habits and folic acid awareness in registered dietitian course students. Trace Nutrients Research 38:18-23 (2021)

Takechi K, Kohama T, Hattori K, Yoshida H. Effect of Shadowing Training on Phonological Awareness Development: Difference between Auditory-sequential Learners and Visual-spatial Learners. The Japanese Society for Language Sciences, 2021 Conference Handbook (2021)

Ikeda Y. Improvement plan for professionalism course guidance based on adult learning theory. AMEE MedEdPublish 10:3785 (2021)

Ikeda Y, Mitsui Y, Kaji H, Isogai N, Akagi M, Matsumura I. Characteristics of Medical Students who Repeated the Same Grade Using the DREEM Questionnaire. Journal of Medical Education 25:61-72 (2021)

Kimura K, Kubota Y, Ikeda Y, Shigeoka H, Inoue T, Kotake T, Hiraide A. Effect of shared learning of disaster medicine on medical and pharmacy students. Japanese Journal of Disaster Medicine 26:43-49 (2021)

窪田愛恵, 三井良之, 池田行宏, 伊木雅之, 平出敦. 近畿大学医学部の学生における留年等に関する決定木分析 – IR としての分析 –. 近畿大医誌 46:89-93 (2021)

〔教育関連学術業績〕

学会発表

第 62 回日本神経学会学術集会 (2021 年 5 月 19 日)

医学生対象オンライン環境下の team based learning の試み ―パーキンソニズムを題材に―

近畿大学医学部 三井良之、池田行宏、中野直樹、濱田征宏、稲田莉乃

【目的】近年, active learning の手法として, team based learning (以下 TBL) が用いられる. 今回, 医学部 3 学年のユニット講義に Zoom を用いた TBL を行った. その実践報告とともに効果・学習者の反応を検証する.

【方法】医学部 3 学年 108 名に対し, 神経・運動器ユニット講義でパーキンソニズムをテーマとした TBL をオンライン環境下で実施した. TBL は 3 課題で, それぞれ, Parkinson 病進行期の管理, 多系統萎縮症, 進行性核上性麻痺を題材とした. 授業は Parkinson 病の基礎知識, パーキンソン症候群の鑑別, Parkinson 病の進行期管理とケア, Parkinson 病の外科治療の 4 コマと 15 グループに分割したスモールグループディスカッション (以下, SGD) の 2 コマで構成した. SGD では, グループごとに割り当てられた課題についてパワーポイントによる発表資料を作成するように指示した. 授業は, すべてオンラインで, SGD は Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用した. Google Classroom を介して, 事前事後で 5 問の MCQ 形式の確認テストを行い, その結果を前後で比較した. また, 学習者を対象としたアンケート調査を行った.

【結果】確認テストの結果は全ての設問で事前よりも事後で上昇 (55→84%, 40→71%, 33→62%, 33→63%, 56→87%) した. 作成されたプロダクトについては, 量, 質ともにバラツキが大きかった. SDG に役だった授業としては, パーキンソン症候群の鑑別を挙げる者が 45% と最も多く, TBL については, 55%, 事例内容については 72% が肯定的意見であった. 一方, 他の授業への導入は 49% がどちらでも良いとの意見であった. 自由記載では, オンライン環境下でも, 改めて SDG の重要性に気づいたとする意見の一方, プロダクト作成の困難さ, 参加に消極的な学生の存在などを指摘する意見があった.

【結論】オンライン環境下でも TBL には一定の効果あり, 臨床医学の初学者に神経学に対する興味を喚起する手段として今後も利用できると考える.

第 38 回日本微量栄養素学会 (2021 年 6 月 12 日)
管理栄養士養成課程女子学生の食習慣と葉酸認知度

松尾拓哉¹、竹森久美子² 大東英利奈²、中川桃佳²

¹ 近畿大学医学部教育センター医学基盤教育部門、² 近畿大学農学部食品栄養学科

【目的】管理栄養士は妊娠中の女性に神経管閉鎖障害のリスクを低減する葉酸に関する情報を提供する機会を持つ可能性がある。本研究は、管理栄養士養成課程学生を対象に食習慣による葉酸摂取量と葉酸の認知との関連について調査を行った。

【方法】大阪府と奈良県の管理栄養士課程学生 820 人を対象に食物摂取頻度調査(FFQg: Ver4.0)と食習慣アンケートを実施した。記入と提出は任意で無記名とした。食習慣アンケートは、「Q3 葉酸を知っていますか」「Q4 先天異常を知っていますか」「Q5 神経管異常を知っていますか」「Q6 葉酸と神経管閉鎖障害の関係を知っていますか」であり、選択肢は「a. 知らない」「b. 以前に聞いたことがある」「c. 書物や記事で読んだことがある」「d. すでに別の講義で学んだ」とした。

【結果】配布数 820 件、回答数 611 件 (75%)、有効回答数 572 件 (70%)であった。食習慣アンケート「Q3 葉酸を知っていますか」の葉酸摂取量では、「b. 前から知っていた」 $234 \pm 76 \mu\text{g/day}$ と「d. すでに別の講義で学んだ」 $234 \pm 72 \mu\text{g/day}$ は、「a. 知らない」 $210 \pm 58 \mu\text{g/day}$ との間で有意な差 ($p < 0.05$) があった。「Q6 葉酸と神経管閉鎖障害の関係を知っていますか」は「d. すでに別の講義で学んだ」 $248 \pm 59 \mu\text{g/day}$ と「a. 知らない」 $224 \pm 73 \mu\text{g/day}$ の間で有意な差 ($p < 0.05$) があった。緑黄色野菜摂取量では、Q4 の「先天異常を知っていますか」で「b. 前から知っていた」 $40 \pm 30 \text{ g}$ と「d. すでに別の講義で学んだ」 $33 \pm 23 \text{ g}$ は、「a. 知らない」 $26 \pm 23 \text{ g}$ との間で有意な差 ($p < 0.05$) があった。Q3「葉酸を知っていますか」の「b. 前から知っていた」「c. 書物や記事で読んだことがある」「d. すでに別の講義で学んだ」をすべて「知る」(462 人：葉酸 $234 \pm 73 \mu\text{g/day}$ 、緑黄色野菜 $66 \pm 43 \text{ g}$)とし、「a. 知らない」(110 人：葉酸 $209 \pm 58 \mu\text{g/day}$ 、緑黄色野菜 $56 \pm 34 \text{ g}$)と比較した結果、葉酸摂取量と緑黄色野菜摂取量において、有意な差 ($p < 0.05$) があった。

【考察】管理栄養士養成課程学生の調査では、意識的な緑黄色野菜の摂取促進が葉酸の摂取促進に関係することが明らかとなった。2003 年から 10 年間にわたる妊婦の葉酸平均摂取量は、300～360 $\mu\text{g/day}$ であり (近藤ら、2017)、本調査の学生の葉酸平均摂取量は、 229 ± 71 $\mu\text{g/day}$ と低い値を示した。女子学生では、妊娠は将来の事として、十分な意識を持って食生活を行っているとは考えられないとの報告がある (松尾、2020)。本調査に回答した学生の平均年齢は 19 歳であり、葉酸に対しての認知や知識があっても意識的に葉酸を摂取していない可能性が示唆された。

第 53 回日本医学教育学会（2021 年 7 月 30 日～31 日）
COVID-19 パンデミック下における学生相談形態の変化

近畿大学医学部 池田行宏、藤田貢、三井良之、梶博史、磯貝典孝、赤木将男、松村到

【背景・目的】学生相談室は学生にとって必要に応じて気軽に訪問できる場所である必要がある。しかし、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ほぼすべての講義がオンライン化され、多数の学生が大学に立ち入れない状況が続いた。そのような中で学生相談室は学生のニーズにこたえるべく、オンラインでも相談を行ってきた。今回の発表では、2019 年度と 2020 年度の相談室活動を比較し、今後の活動方針を考える基礎資料を提供することを目的とする。

【方法】2019 年度と 2020 年度の相談記録を比較し、対象者、相談手段、相談内容に変化があるか、学生のニーズに変化があるかを検証する。

【結果・考察】1 年間（2020 年 4 月～2021 年 2 月）の相談件数は 516 件と前年度の 484 件よりわずかに増加した。学年別では 1 年生が最も多く 231 件、次いで 4 年生 119 件であった。これらの学年は一部カリキュラムで大学に来る機会があったこと、1 年生に関しては 4 月に大量の相談を受けたことが原因である。一方、1 年を通じて大学に来る機会に乏しかった 2,3,5,6 年生の件数は少なかった。相談手段は LINE や ZOOM といったオンラインで実施できるものが増加した。相談内容は学業に関するものが 335 件と全体の 64.9%であった。2019 年度と 2020 年度の大きな違いはクラブ活動、人間関係、留学に関する相談が 2020 年度で減少したことである。これらの原因は全てコロナ感染拡大の影響であると推察される。2021 年度もしばらくはこのような状況が続く、大学に来ない状況下では、学生相談室を必要とする学生の発見が難しい。メンターの教員にも密に連絡をとり、学生の状況を十分把握していくことが今後の課題である。

第 53 回日本医学教育学会（2021 年 7 月 30 日～31 日）

産学官連携による医療イノベーション学の新たなワークショップモデル

岡田清孝¹、後藤敏一¹、烏野肇之²、戸口愛梨²、手取祐介³、中川健太³、澤野恵梨³、小野恭義⁴、梶博史⁵、赤木将男⁶、松村到⁷

¹ 近畿大学医学部教育センター医学基盤教育部門、² 近畿大学医学部プロジェクト推進室、³ 堺市広報課、⁴ 大阪府産業局、⁵ 近畿大学医学部再生機能医学、⁶ 近畿大学医学部整形外科学、⁷ 近畿大学医学部血液膠原病内科学

近畿大学医学部 1 学年の前期科目「医療イノベーション学」は、医学周辺分野でのイノベーションを軸に、産学連携のトピックスから情報の分析方法まで学修内容が多岐にわたる科目として設定されている。「医療イノベーション学」の授業の一部として、堺市、堺市健康寿命延伸産業創出コンソーシアム（SCBH）、および近畿大学医学部間の産学官連携によるワークショップ「カレッジラボ with 近大医学部」を、オンライン授業により 3 回に渡り行った。本ワークショップは、健康寿命延伸に関する先導的なサービス等の創出を通して、地域の活性化に資する取組を進める SCBH（事務局：堺市）が、SCBH の会員である民間企業 2 社の協力を得て、近畿大学医学部と連携して実施した。本ワークショップの目的は、産学官の連携によるヘルスケア分野における新たなサービスの創出と、近畿大学医学部生の課題解決能力の育成にある。学修の成果としてのビジネスプランは、学生 9～10 名で構成する 12 グループに分かれ、Zoom でのブレイクアウトルームによる 2 回の授業内グループワークと、3 週間における授業外グループワークで作成した。ブレイクアウトルームによるグループワークは、各グループ内へ企業からファシリテーターとオブザーバブレイクアウトルームれた。完成した各ビジネスプランは、グループ代表者が Zoom によるオンライン発表会で発表し、各企業から評価を受けた。その結果、各グループで作成したビジネスプランは、現在の生活様式等に適合し、さらに先を見通したものとして高く評価された。このワークショップを通して、個々の単なる知識の構築のみならず課題解決能力の向上にもつながった。また、今回のワークショップは、コロナ禍での登校できない環境下におけるオンラインによる学生間のつながりとしても有効であり、個々の学生のコミュニケーション能力の向上にも寄与できた。この取り組みについての学生の反応は「さまざまな発想があって面白かった」「頑張ってたよかった」など、良好であった。このような取り組みは、医学教育における産学官の連携の新たな授業モデルとして、今後の発展が期待される。

第 61 回日本先天異常学会学実集会(2021 年 8 月 7 日～8 日)

女子看護学生における先天異常の認知と教育

近畿大学医学部 松尾拓哉

看護学生を対象に先天異常と栄養素についての講義を行っている。講義前に女子看護学生 1 年生 1,163 人 (2006～2019 年；2016～2017 年を除く) を対象に先天異常の認知についてアンケート調査を行った。「知らない」383 人 (33%)、「知っている」431 人 (37%)、「書物・記事で読んだ」77 人 (7%)、「講義で学んだ」272 人 (23 %)であった。「知っている」と「書物・記事で読んだ」を合わせた 508 人(44%) の調査年別の割合は、25～64% (中央値 42%) を示し、年ごとの認知率に統計的な差はなかった。224 人 (19%) が先天異常を知った時期と媒体を回答した。高校 88 人 (39%)、中学校 56 人 (25%)、小学校 31 人 (14%)、マスコミ 15 人 (7%)、その他 34 人 (15%)であった。小学校から高校までの学校教育において先天異常を学ぶ機会を得た学生がいることが明らかとなった。先天異常について認知を高めるためには、より多くの学習機会を継続して設けることが重要である。

第 67 回日本学校保健学会 (2021 年 11 月 5 日～7 日)

医学部生のための教員による学生相談室開室の試み ―コロナ禍における学生相談形態―

近畿大学医学部 池田行宏

【背景・目的】新型コロナウイルス感染症拡大の影響から 2020 年度は、多数の学生が大学に入構できない状況が続いた。学生相談室では学生のニーズに応えるべく、オンラインによる相談対応を行ってきた。本発表では、2019 年度 (従来の対面型対応) と 2020 年度 (オンライン対応) の相談室活動を比較し、学生ニーズ変容の観察と今後の相談室の対応を検討していくことを目的とする。

【方法】2019 年度と 2020 年度の相談記録を比較し、対象者、相談手段、相談内容の変化を評価する。

【結果・考察】年間の相談件数は 516 件と前年度よりわずかに増加した。学年別では 1 年生が最も多く 231 件、次いで 4 年生 119 件であった。1 年生は 4 月に大量の相談を受けたこと、4 年生はカリキュラムの都合上大学に来る機会が他学年に比べて多かったことが寄与している。一方、大学通学の機会に乏しかった 2,3,5,6 年生の相談件数は少なかった。相談手段は LINE や ZOOM といった遠隔やオンラインで実施できるものが増加した。相談内容は学業に関するものが 335 件と全体の 64.9%を占めた。2020 年度ではクラブ活動、人間関係、留学に関する相談が減少したことが大きな特徴である。これらは全てコロナ感染拡大に影響された結果と推察される。学生が通学しない状況下では、学生相談室を必要とする学生の発見が困難である。メンター教員との連絡を密にし、学生の生活状況を逐次把握することが今後の重要課題である。

第 67 回日本学校保健学会 (2021 年 11 月 5 日～7 日)
COVID-19 対策下における高等学校の性教育実施の実態

巻島愛¹、池田行宏²、岡山睦美³、石井里佳⁴

¹旭川医科大学、²近畿大学、³十文字学園女子大学、⁴高崎市立高崎経済大学付属
高等学校

【目的】現在日本の性教育は、小学校から高等学校まで文部科学省が出している学習指導要領を基に行われている。しかしこれらは学校運営が問題なく行えている場合を想定されており、昨今の新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）感染拡大による休校などは想定されていない。先行研究では、高等学校における性教育の担当教員は、教科ごとの教員の次に多いのが養護教諭であり、高等学校において、養護教諭が性教育の担い手として重要な役割を持つと考えられる。しかし 2020 年 1 月から日本でも COVID-19 の流行が開始したことにより、養護教諭は校内における感染対策等に重点を置く必要があり、高等学校も感染防止の観点から集合での性教育講演会などを中止せざるを得ない状況になっている。このような状況により、さらに日本の性教育実施状況が進まないことで、望まない妊娠や中絶などが増加すること、何より自身の安全を守る教育が阻害されることが懸念される。そこで、今回 COVID-19 対策下において、高等学校でどのような性教育の実態となっているのか調査し、今後、感染症や災害等により集合教育や登校が難しい場合においても性教育を継続していける方法を模索することを目的とする。

【方法】対象は、20 歳以上の人工妊娠中絶率が全国平均 $\pm 1SD$ （2019）に入る都道府県を無作為抽出し、そこに所在する高校とし、無記名自記式調査をインターネットで実施。

【結果・考察】詳細な結果・考察に関しては、当日発表とする。

[教育関連学術業績]

講演

松尾拓哉. 「教育現場における SNS の対応 ―安全性と危険性について―」
令和 3 年度（一般社団法人）日本看護学校協議会 事務担当者会（2021 年 10 月 5 日）

松田学. 公開講義「病気はなぜあるのだろうか？」
近畿大学附属広島高等学校福山校（2022 年 3 月 12 日、Zoom による遠隔講義）

[教育関連学術業績]

研究費獲得

武知薫子.「失敗不安の構造の解明とその制御能力の育成：留学を見据えた異文化ゲームの開発と評価」日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (C). 課題番号 21K00667. 2021 年 4 月～2025 年 3 月. 総額 3,770,000 円（うち直接経費 2,900,000 円）

池田行宏.「学生のプロフェッショナリズムを育てる近大 IPE の構築」令和 3 年度教育改革・学生支援プロジェクト助成金. 課題番号 21102. 2021 年 4 月～2022 年 3 月. 総額 480,000 円

編集後記

令和 3 年度も新型コロナウイルスに翻弄された 1 年でしたが、その中で「医学部教育センター紀要」令和 3 年度版を無事発行できたこと、ひとまず安堵しています。

昨年度の創刊号は岡田清孝先生主導のもと編集されました。それ以降は私が編集業務を行うよう岡田先生より申し使っておりましたが、いざ作業を開始してみると、日々ご多忙な先生方に原稿依頼をするのがはばかりられるような気がいたしました。私自身、目の業務に精一杯であり、とても編集作業をする余裕はない、と考えていた節もあります。

しかし当初の懸念は杞憂に終わりました。実際には先生方はみなさん大変協力的で、とりわけ特集記事をご担当いただいた後藤敏一先生、栗田隆志先生には、力のこもった記事を執筆していただきました。心より感謝申し上げます。

令和 3 年度も前年度に続き、コロナ禍で制約された環境下での教育対応となりました。Zoom によるオンライン講義には多少慣れてはきたものの、感染状況に応じて変化する教育体制の変化に、学生も教員も翻弄されることが多かったでしょう。臨床実習も依然大きく制約されたままでした。このような状況下にも関わらず、各教育関連委員会の方々が尽力してくださり、その結果として令和 3 年度も無事乗り切れたのだと感じています。

改めまして、「医学部教育センター紀要」令和 3 年度版の発刊にあたりご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

令和 4 年 5 月 20 日
医学部教育センター紀要 編集担当
医学部教育センター 准教授
藤田 貢